



頭ヶ島教会（下）

上五島・長崎巡礼⑨

に発刊した「長崎の教会」によると、信徒世

藤屋侃士
(下松市幸ヶ丘)

222

帯十八、信徒総数五十五人とある。頭ヶ島教会は現在、車で三十分ぐらいのところにある鯛ノ浦教会の巡回教会で、そこから月二回、神父が来られ、ミサがあるという。

旅から帰り、電話で鯛ノ浦教会の神父に尋ねた。現在の信徒世帯数は九、一回のミサに参加するのは十人ぐらい。往時の十分の一以下である。

大勢の信徒が住んでいた当時をしのばせるものがあつた。墓地である 教会を出て海岸へ少し下ったところにあつた。隠れて信仰する必要がない喜びを表すかのように墓石の上には十字架がある。

教会と墓地との間にある「白浜窯」という窯元。夫婦で四国から移り住んでいるという。いくら頭ヶ島大橋が架かり、車で来れるようになったとはいえ、へき地の離島であることに変わりはない。島に作られた上五島空港も閉鎖された。

教会の前にあつた窯元

五島列島が隠れキリシタンの潜んだ地として余りに有名だつたことから、島民の多くが隠れキリシタンだつたと思われがちだが、そうではない。

宇久島や小値賀島のように隠れキリシタンが存在しなかつた島もある。そんな中で、隠れキリシタンだけが住んだ島が頭ヶ島である。前回触れたように、無人島だつた頭ヶ島に明治初期の隠れキリシタン迫害を逃れて住みつけたからである。

最も多い時で百世帯の信徒が住んでいたといわれているが、今ほどのぐらいの信徒がいるのだろうか。長崎教区が平成元年



頭ヶ島のキリシタン墓地

いづれにせよ、先祖が信仰を守り続けた土地を離れ、より文化的で便利な生活を求めることを誰が非難できようか。

去る人あれば、来る人あり。そんな頭ヶ島に移り住んだ人がいるのに驚く。

今回、二度、頭ヶ島教会を訪ねたが、人と出会つたのは一組の観光客だけ。大変失礼だとは思つたが「経営が成り立つのですか」と質問した。

奥様は笑いながら「私が別の所で働いています」せんさくはやめた。好きな陶芸に打ち込む主人、それを支える妻。すぐ採算とか損得を考える自分を恥じた。